

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500069
法人名	医療法人かん養生クリニック
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	福岡県北九州市小倉南区蛸田若園3丁目4-10
自己評価作成日	平成23年8月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月28日	評価結果確定日	平成23年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、閑静な住宅街に位置し、近隣には鯉の泳ぐ川や公園が有り落ち着いた環境に恵まれた場所に有ります。入居者さんには以前と変わらない生活が送れるよう一人一人の希望にあった活動やリハビリを取り入れています。入居者さんと職員は同じ場所で営む家族を考え、少しでも身近に感じて頂ける様接することをモットーにしています。又、隣接の『こもれび』と合同レクリエーションを楽しんだり、お互いが行き来出来、気分転換や楽しみを感じて頂ける様努めております。夜間対応として、介護面の緊急対応の充実。医療面では、母体である医療法人かん養生クリニックといつでも連携が取れるよう、24時間連絡体制にて対応しています。週1回、医師による体調管理も行い医療面からのサポートも充実しており、より良い生活が送れるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時は田園風景が広がる静かな周辺環境であったが、同法人のこもれび、デイサービス事業所の開設や、少しずつ近隣の開発も進み、静かな中にも活気のある場所となっている。認知症専門医でもある母体医療法人との連携を図りながら、日常の暮らしの中で心身の機能維持に取り組み、また、入居者本位の寄り添う支援を、「こもれび」のような穏やかな暮らしの実現に結び付けている。入居者の方々の、昨年と変わらぬ豊かな表情と、職員の自然体でのかかわり、入浴時等の細やかな配慮からは、日々の実践をうかがい知ることが出来る。来春には、同法人の小規模多機能型事業所がホーム前に開設されることとなり、それぞれの連携も活かしながら、地域における福祉拠点としての活動の展開が楽しみとなる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同で意見を出し合い作った地域密着サービスの意義を踏まえた目標を理念とし、職員通用口に掲示し実践に行かせるよう心掛けている。	新人採用時のオリエンテーションでは、目指していく支援の方向性として、こもれびの理念を説明し、共有、浸透を図っている。また、ミーティング等においても、理念の確認や振り返りの機会を持っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や施設周辺の清掃活動の際挨拶を積極的に行うよう心掛けている。又、地域で行われる行事への参加も心掛けている。	テントの設営等、地域の協力も得ながら、法人としての「こもれびまつり」は当地で開催され、法人職員(看護師、OT、PT)による健康相談や、医師による講演会も開催されている。毎週、水曜日には、入居者の方々にも時折参加してもらいながら、周辺の道路愛護活動を継続している。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、実際のケアの様子を報告することで、認知症の理解を得るようにしている又、入所の検討をしている方の相談を受けたりしている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を添付し、実際の様子を報告を行い現状を把握して頂ける様努めている。談話形式では有るも、貴重な意見を受け止め、職員ミーティングの際伝えサービスの向上につながる様心掛けている。	隣接する「こもれび」との合同開催となり、入居者、家族、町内会長、老人会長、民生委員、包括支援センター職員等のメンバー構成となっている。事業所からの報告と、参加者からの意見、要望をもとに意見交換が行われている。施設に関する話し合いも行われ、運営への反映が行われている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催のグループホーム交流会への参加。グループホーム協議会主催の意見交換(予定)を通し、関係を築くようにしている。	グループホーム協議会主催による行政との意見交換会や、地域包括支援センター主催による交流会において、市町村担当者との顔の見える関係作りが行われている。また、不明な点等は、家族の立場から直接問い合わせを行っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の指定基準における禁止の対象を十分理解し、ケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、運営推進会議にて検討を行う。御家族からは施錠してほしいとの訴えあるも、午前中は解放することの了解を得て、実行している。	玄関の施錠については、運営推進会議の中で、家族や包括支援センター職員との話し合いを行い、現在、午前中の開錠が行われている。言葉かけ等を含め、拘束に繋がる事例を研修等で再確認し支援を行っている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム委員会とし、月に1回学ぶ時間を設けている。又、情報を交換することで再度認識を深めている。	

福岡県 グループホーム こもれば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度どちらも利用されている方がおり、情報提供を行っている。又、グループホーム委員会の中で研修を行い学ぶ機会を設けて理解を深めている。	現在、制度を活用している方もおり、訪問当日も後見人である弁護士との来訪の場面があった。実際の支援の過程において学ぶことも多く、職員は理解や知識を深めている。資料の整備や計画的な内部研修が実施されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、十分時間をかけ納得していただける様努めている。また、入居後に疑問に感じた事についても、その都度納得していただける様努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族が意見・要望を言いやすいような良好な関係作り、及び雰囲気を作るよう心掛けている。又、入居時に公的な苦情相談窓口や御意見箱の利用について説明している。	運営推進会議への家族の参加や、日頃から訪問する家族の意見を真摯に受け止め、運営に反映させて行っている。医療連携体制に関するアンケート調査を実施したり、相談受付シートや運営推進会議の議事録をカウンターに設置する等、情報共有と意見の収集に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回法人で行われる責任者会議にて職員の意見等管理者より提案する機会を設けている。又、定期的に法人より職員に意見を聞く機会を設けている。	管理者は各事業所責任者会議に出席時、職員意見を伝え、全体での検討を行っている。また月に2回、法人本部から担当者が訪れ、職員意見の収集の機会を持っている。ゴミだし等の業務改善や、ミーティング・カンファレンス時の処遇等について、職員意見が採用されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にスキルアップ、目標を持ち外部研修の希望には、勤務調整を行っている。又、福利厚生の一部とし費用についても支援している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって、年齢・性別等特に制限は設けることなく、個々の能力ややる気を重視している。職員がお互いを重視し、得意分野が業務に活かされ、充実した気持ちで勤務出来る様心掛けている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別を理由とする制限は行っていない。希望する外部研修への参加をサポートし、また、ミーティングやカンファレンス時の処遇について改善が行われる等、働きやすさやスキルアップへの取り組みがある。隣接するグループホームとの定期異動(1、2名程度)を行い、質の向上や活性化への取り組みを行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中に「お一人お一人の意見を最大限に尊重し権限を守ります」と掲げ、理念の共有・実践により人権教育にもつなげている。又、内部研修にて、学ぶ機会を設けている。	グループホーム委員会としての内部研修の中で、様々な視点から人権教育、啓発に取り組んでおり、入居者の尊厳を意識した対応となるよう、事例をもとにした検討も行われている。	

福岡県 グループホーム こまれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用の研修については、経験等合わせ期間や内容を替えている。内部研修として、グループホーム委員会とし月1回学ぶ機会を設けている。外部研修へは参加しやすいよう勤務日等配慮し、費用についても支援している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域包括支援センター主催のグループホームのつどいや交流会へ参加し向上するよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに、御本人様とお会いし、要望や不安等情報収集を行い、お一人お一人に合わせ柔軟な支援に努め、安心して入居できるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに、御家族様より要望や不安等情報収集を行う様努めている。御本人の前では話づらい内容は、日を改めるか、電話で対応し、安心して入居が出来るよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の状況や現状のサービスの内容・困っている問題等情報収集を行い、御家族の了解の下、居宅・医療関係者等の意見を含め対応するよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、コミュニケーションの機会を大切に、洗濯・料理・食事を共に行い、趣味や特技を一緒に楽しんだり、教わることで支えあう関係につながるよう努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での出来事等の報告を行い、御本人の為にどうしたら良いのか、相談や意向をうかがう様努めている。又、行事の参加を呼び掛け共に支えあう関係に繋がるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、出来る限り馴染みの物を持っていただける様お願いをしている。又、生まれ育った場所の歌を歌ったり、馴染みの方が来所しやすい場の提供に努めている。	職場の同僚であった方や、在宅時の近所の方の来訪を歓迎している。家族宅への定期的な外泊や、お墓参り等、関係性の継続に向けた支援を行っている。	

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日頃の入居者の表情や関わりあいから、関係性の把握に努めている。必要に応じ、職員が会話の橋渡しをする等、良い関係が築ける様努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先へ面会・お見舞いへ行くこともあり、退所後も継続した関わりが保てるよう努めている。電話にて、現状の報告をして下さる事もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、御本人・御家族の思いや意向が、ホームの暮らしの中で反映されるよう、日々の会話や行動から把握し、職員間で共有できるよう努めている。	入居時に、家族の協力も得ながら、生活歴やライフスタイル等の情報収集を行っている。喜怒哀楽を表現できる場面を大切に、また、リラックスできるような細やかな配慮が行われている入浴時等の何気ない一言を職員間で共有している。収集された情報をもとに、職員の思い込みとならないように、本人本位の検討に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、事前に情報収集を行い、入居後も日々の会話の中から生活歴・生活環境の把握に努め、職員間で共有できるよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の様子や会話等で心身の状況の把握に努め、変化が見られた時は、申し送り、記録により職員全員が把握できるよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の意向を大切に、ケアマネジメントを行い、月1回のミーティング・モニタリングを通し現状に即した介護計画になるよう努めている。	本人、家族の意向を踏まえ、それぞれの入居者担当職員の意見を参考にしながら検討を行っている。また、担当者会議には訪問看護師の出席も得ている。毎月、モニタリングを実施している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個別のケース記録に記入し、変化については、業務日誌に記録し状況の把握・共有が出来るように努めている。必要であれば介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム こもれば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さまざまなニーズに対し、御家族とも相談しながら対応するよう努め、取り組んでいる。又、身体的状況の変化については母体より支援の応援により、多機能的に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる夏祭りに参加させて頂いたり、ボランティアの来所や、消防訓練に消防署の協力を得る事等で、社会とのつながりを持ち、地域に根差した生活が出来るよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人より週1回の往診にて健康管理を行っている。又、本人・御家族の希望を大切にしながら、協力医療機関も含め適切な医療が受けられるよう支援している。	物忘れ外来が設置されている母体医療法人より、週1回の往診体制が確立している。その他の希望する医療機関への受診は、家族の協力を得ながら支援を行っている。歯科についても、必要時の往診が可能である。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療法人より週に1日看護師が勤務しており、健康管理や状況把握を行っている。又、気づき等相談し指示を仰ぐことが出来、スムーズに医療へ繋がるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、馴染みの物を病室にて利用して頂き、少しでも安心して頂ける様配慮している。又、医療連携の看護師の協力も得て、早期退院に向け病院関係者との情報交換を密にしている。又、退院時には、担当者会議を経て退院を迎えている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を示し、御家族の同意を得ている。現在事例は無いが、御家族の希望を把握する為アンケート調査を行っている。事業所として出来る事、出来ない事を把握し、主治医、御家族との話し合いにて方針を共有する。	入居時に、重度化や終末期のあり方について指針を示し、同意を得ている。状況の変化に応じて、家族、主治医、看護師との話し合いを重ね、方針を共有している。医療連携体制の整備に向けて、家族の意向に関するアンケート調査が行われている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、すぐに確認出来る所に貼ってある。又、救命救命の研修を行い、日常的に意識が持てるようにしている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回防災訓練を地域の方の参加もはたらきかけ実施。夜間を想定した訓練や地震を想定した訓練を行っている。	隣接する同法人事業所と合同にて、消防署や防災業者との連携のもと、避難訓練が行われている。緊急連絡網として町内会長の協力も得ている。	運営推進会議への地域住民の参加を求めながら、災害時を含む、地域、事業所、相互の協力体制が、より深まっていことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重しプライバシーの保護には十分配慮し、状況に応じた声掛けや対応に努めている。	一人ひとりの生活暦やライフスタイルを大事にし、尊重とプライバシーの確保に努めている。排泄ケアの際には特に留意し、さりげない誘導や失禁時の対応等、誇りを損なわない支援に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた声掛け、対応を心掛け、意思を尊重できるよう努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の一日のスケジュールを設定してあるが、一人一人のペースに合わせ、可能な限り希望にそえるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を御本人の希望を優先し、一緒に選んだり、定期的に美容師さんに来所していただきカットだけでなく、パーマやカラーも希望に添えるように支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、後片付け等個々に合わせ、お手伝いをしていたっている。入居者と職員は同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。	週2回の食材の買い物への同行から、調理準備や後片付け等に力を発揮していただき、食事作りのプロセスを大切にしている。穏やかな音楽が流れ、職員も共に食卓を囲んでいる。個別の食器が使用されている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を記録し、管理を行っている。こまめな水分摂取を促し脱水等には十分気を付けている。又、嚥下障害のある入居者さんにはトロミを付け提供したり、食事の形態を変えるなどし提供している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じ、介助の方法を代え行っている。又、必要に応じて、協力歯科へ往診を依頼している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターン・間隔の把握に努め、カンファ等で検討し、定期的な声掛け誘導を行いトイレ内環境を整備し、自立した排泄が出来るよう努めている。	水分・排泄チェック表により、個別の状況やパターンの把握に努めている。疾病状況やニーズにあわせて、個別の支援が行われており、トイレ誘導や自立に向けた取り組みを行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、植物繊維や乳酸菌を多く含む食材の提供を心掛けている。又、散歩や体操の参加を促し自然排便を心掛けている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴の設定はしてあるも、可能な限り状況や希望に合わせて柔軟に対応している。個々に応じた入浴の支援を行っている。	毎日、入浴準備を行い、ゆっくりとした時間の中で、会話をすることも大切にしている。個別のシャンプーを用いたり、入浴後もゆっくりとした関わりを持つ等、細やかな配慮が行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体操、散歩、レクリエーション、家事の手伝い等、無理にならない様日中活動をして頂き、夜間の安眠に繋がるよう努めている。又、生活習慣や体調により休息して頂くよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的、副作用等いつでも確認できるようにしている。薬の変更があった時は、業務日誌に記入し変化の確認に努めている。特に眠薬については、体内動態を把握するよう努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に合わせ、家事の手伝いをして頂き、生活歴や趣味を生かせる生活・レクリエーションにて気分転換を図り、楽しみを感じて頂けるよう支援している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その日の希望にそって、戸外へ出かける事は、難しく出来ていないが、御家族と協力しながら、普段行けない希望するところへ行けるよう努めている。</p>	<p>個別や少人数での散歩に出かけている。敷地内にある花壇で花を摘み、リビングに飾るなど、短時間でも外気に触れられるよう配慮している。駐車場でテーブルを出して、戸外で寛ぐ計画を立てている所である。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お一人お一人の能力に応じ、御家族の了解のもと、所持されている方もおられます。又、所持されていない方も、預かり金より御本人様にお支払いをして頂く等の支援をしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される入居者さんは、ホームの電話を利用して頂き、御家族と連絡を取って頂いている。又、年賀状を御家族へ入居者さんよりお出ししている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは十分な広さを設け、天井も高く天窓からは、自然の光が差し込み開放的な空間となっている。庭に咲いた花をテーブルに飾り、季節感を取り入れ、居心地良く過ごして頂ける様努めている。</p>	<p>木の質感が多用された室内空間は、高い天井と天窓により、自然光が差し込み、開放的な空間となっている。内装の穏やかな色調は、居心地の良さや精神的な安定にも配慮されたものである。ベンチとしても活用されている畳スペースや、ゆったりとしたソファも配置されており、くつろぎの場所となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファセットを設置、畳のスペースも有り、窓辺にもソファを設置し好きなところで過ごして頂けるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ、安心して生活出来るように使い慣れたものを持ってきて頂くようお願いしている。又、家具の配置等、御本人・御家族と相談しながら、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>和室やトイレ・洗面台付の居室もあり、3タイプの居室設定が用意されている。鏡台や筆筒が持ち込まれ、安心できる環境作りに配慮がなされている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部にはバリアフリーになっており、歩行器・車いすの方も安心して生活出来るようになっている。又、共同トイレには、可動式の手すりを設置。居室トイレを含み、手すりが必要と思われる際は追加し、自立した生活が送れるよう努めている。</p>		